

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 富岡小学校 】

1 実践テーマ	【スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】
2 実施対象者	①全校児童 ②5・6年 児童
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 行事名（特別活動）長縄集会 ② 教科名（総合的な学習の時間・体育） その他（人権週間）車いすバスケット
4 目標 (ねらい)	①スポーツを通して体を動かすことを楽しむことができる。 ②トップアスリートとの連携・協働の推進 ③車いすバスケの選手との交流を通して、多様性を理解し、共生社会の素地を養う。 ④体力向上の推進
5 取組内容	<p>①④体力向上の推進</p> <p>○長縄大会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の中休み、3回に分けて長縄集会を全学年行う。 ・ペア学年（1・6 2・5 3・4年）で互いに数えたり応援したりする。 ・3分間八の字で跳ぶ。 ・合計数を記録とする。 ・運動委員会作成の記録証を配布。  <p>②③トップアスリートとの連携＋多様性の理解と共生意識の育成</p> <p>○車いすバスケの体験</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間・体育 ・5年—11月 6年—12月 ・競技用車いすの工夫や車いすバスケのルールについてお話をいただいた。自由にならないところがあっても、器具やルールの工夫次第で、スポーツを楽しむことができることをお話いただいた。 ・自分にうまくいかないことがあっても、自分の気持ち次第で明るい生活を送ることができる。困ったことは、ありのままを周囲に話し手を貸してもらおうことも大切。困っている人がいたら、声をかけて手を貸すことのできる人になれると、自分も幸せな気持ちになれる、というお話もいただいた。 ・車いすの操作の仕方を教えていただき、全員試乗。進む・曲がる・ターンするなどの操作をした。 ・選手模範指示を見る。 ・選手のサポートを受け、自分達も試合をした。

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄集会の機会を全校でもつ事により、運動経験を増やしたり、苦手な児童や個に応じたサポートの仕方について、クラスみんなで考えたりした。一人ひとりもつ個性を認め、支えながら、記録を目指すことをとして、他者を理解しようとする気持ちを養うことができた。 ・車いすバスケの体験では、選手の方々の試合に魅了された。車いすに乗ってプレーしていると感じさせない動きに、日々の努力と強い気持ち、希望をもつことの大切さについて、学ぶことができた。 ・障害をもつ方々との共生社会の在り方について考える機会となった。 ・車いすを使ったバスケのゲームだったが、車いすの有無に関わらず、運動することや仲間とゲームを楽しむことを楽しむことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックや共生社会への関心がもてるように、児童が取り組みやすいスポーツを題材に活動した。 ・選手として活躍している方々のお話を伺うことで、障害があってもなくても、互いを理解しようという気持ちをもったり、困っている人を見かけたら、行動を起こしたりする気持ちが、喚起された。 ・障害をもつ方が、どんな考えをもって生活されているのかを実際に伺うことで、希望をもつこと、ポジティブに考えることの大切さについて気付くことができた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「パラリンピック教育教材」等を活用するなど、競技の種類や内容、趣旨など、パラリンピックについての理解を深める活動に取り組む時間をもつ必要があった。 ・活動が単発で終わってしまったので、年間を通して継続的に取り組む内容を考えた方がよかった。 ・やりたいことがあっても、どの機関と連携をとればよいのかわからずに、企画が頓挫してしまうことがあった。
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・校内長縄集会やマラソン集会を継続し、体力の向上と運動の楽しさの実感を図る。 ・児童人権委員会と連携し、パラリンピック教材を利用するなどの理解を深めていく。